

春日神社

もくじ

年頭ご挨拶

祭典ごよみ

秋季大祭 潮汲み神事斎行と氏子青年会の賑わい行事

式年遷宮のお伊勢様に参拝 総代他の研修旅行

大遷宮後の出雲大社へ職員旅行で参拝

敬神婦人会活動

全国敬神婦人連合会大会と国旗小旗づくり

初詣のご案内

トピックス 大分ヒートデビルズ優勝祈願

表彰・人事

「模擬挙式」のご案内

春日の杜

社報 春日神社

新年号(第二〇号)

発行日 平成26年1月1日

発行者 〒870-0031

大分市勢家町4-6-87

春日神社 宮司 宮本隆之

TEL 097-532-5638

題字 東郷平八郎

年頭のご挨拶

宮 司 宮 本 隆 之

新春を寿ぎ、聖上の弥栄と国家の平安をお祈り申し上げます。

さて、昨年の第六十二回伊勢神宮式年遷宮、また出雲大社の平成の大遷宮を受けて、両社は申す迄もなく、全国各御社頭では多くの参拝者を迎えての正月となっていることと拝察申し上げます。歴史ある莊嚴なる大社でのご遷宮は一社だけのものでなく、我々日本民族の心をも浄化して頂ける意義あるものといえると思います。

当社では式年遷宮後の十一月、総代・敬神婦人会・氏子青年会等のメンバー四十名にて神宮をはじめ、ご本社である春日大社、そして熱田神宮と参拝研修旅行を行いました。平日なのに正月のような大勢の参拝者で賑わう伊勢では、先ず外宮に参拝、古殿拝観をさせて頂きました。初めての試みだったのですが、二十年に一度の遷宮の意義を感じながら、ある意味で開かれた神宮に、次期遷宮に向けてすでに歩み出していることを感じました。内宮では御神樂を奉納し、清浄の中に頭も心も「無」の状態で、新たな力を頂戴し、人生の再スタートの気分を味わいました。同行の皆さんはどのように感じられたかはわかりませんが、私は二十年前とはまた違う感情を覚え、更なる目標を掲げ歩んで行こうと思ったのであります。

新年を迎え、一年の繰り返しではありますが、歳旦祭から始まり、日々の日供祭・月次祭・恒例祭と奉仕して参りますが、全てが恙なくそして厳肅に斎行されますよう努力したいと存じます。

氏子崇敬者をはじめ、皆様には、この年が輝かしく、素晴らしい良き年でありますことをご祈念申し上げます。

祭典ごよみ

年末から春にかけて執り行われる恒例祭です。

十二月二十三日 天長祭

天皇陛下の誕生日をお祝いする祭典です。巫女舞「豊栄舞」を奉納します。

十二月三十一日 大祓式・除夜祭

一年間を締めくくり、罪穢れを祓って清々しく新年を迎えるための祭典です。

一月 一日 歳旦祭

元旦にあたり、皇室の弥栄と国家の繁栄、氏子崇敬者の幸せをお祈りします。

二月 四日 初午祭（摂社 稻荷神社）

本殿の西側に鎮座するお稲荷さんの例祭です。

二月十一日 紀元祭

日本の国の誕生を祝う祭典です。雅樂の伴奏で国歌を斉唱します。

二月十七日 祈年祭

本来は農耕儀礼に基づくお祭りですが、今日では稲作のみならず殖産工業すべてに亘って、この一年間の恵みを願う祭典です。

四月十二日 春季大祭宵祭

春の大祭のうち、前日祭です。二日間にわたる庄内神樂が奉納されます。

四月十三日 例祭

神社で一番重要な祭典です。神社本庁からの献幣使を迎えて執り行われます。

四月二十九日 昭和祭

昭和天皇の御誕生日にあたり、御聖徳を仰ぐ祭典です。

五月 一日 摂社金比羅社祭

本殿東側に鎮座するこんびらさんの例祭です。



秋季大祭

潮搔き神事斎行と氏子青年会による賑わい行事



恒例の秋季大祭が十月十八日十九日の二日間にわたり執り行われました。

宵祭りにあたる十八日は、毎年春日公園を会場に当社氏子青年会による「春日の市」が開催されています。野菜果物や鶏めし・お好みバーガーなどの販売、そして今回は久々に総代や敬神婦人会提供品物のバザーを実施。さらに加えて餅つきの実演販売も行われて、例年以上にとっても賑わいました。



夕刻からは生憎の雨模様となりましたが、これも氏青としては初の試みとなる御本殿前をステージとした、地元で活躍のフォークバンド「ディア・フレンズ」によるライブ演奏とチャリティオークションが行われ、バザーを含めた収益金は後日木村会長と宮本副会長が大分合同新聞社へ持参し慈善団体へ寄付しています。

尚、両日の神楽とともに十九日の神幸祭（潮搔き神事）祭典は執り行われましたが、五年ぶりとなる地元小学生による威儀物を奉じての行列は、天候が不順であったために中止となりました。



式年遷宮のお伊勢様に参拝

総代他関係者の研修旅行

権瀬宜 青井宏之

紅葉の楽しめるこの時期、十一月十九日から二十一日にわたり、春日神社研修旅行を実施しました。例年は一泊二日の行程ですが、本年は十月に式年遷宮を迎え、遷宮の儀が斎行されたばかりの伊勢神宮への参拝を行う目的から三日間とし、さらに総代・敬神婦人会・氏子青年会など総勢四十名の参加という、これまで以上の参加者での旅行となりました。

十九日朝、大分駅に集合し

JRにて大阪へ向かい、その後バスで移動。まずは全国春日社の総本社である春日大社にて正式参拝を行いました。この日は真冬を思わせる氷雨の中での参拝でしたが、かえって張りつめた空気の中での参りに、御本社の有難さが身に染みた瞬間でした。宝物殿を拝観して春日大社を後にし、続いて薬師寺へと赴き、平山郁夫画伯により描かれた玄奘三蔵求法の旅をたどる「大唐西域壁画」を拝観。初日の予定を終え、宿泊するホテルへと入りました。

二日目はバスにて伊勢へと移動し、いよいよ伊勢神宮参拝です。外宮では御垣内参拝に続いて神職の案内により旧殿を拝観。二十年を経た歳月の重さと、そ

れゆえに新宮に改められるという式年の制度を実感するとともに、受け継がれてきた伝統を守り伝えていくことの大切さや、式年遷宮のころについての説明を詳細に伺いました。さらに外宮では今回の遷宮に併せて新設された「せんぐう館」も拝観、写真や模型をもとにわかりやすい展示がなされていた事が印象に残りました。

昼食をはさみ、いよいよ内宮です。全国から訪れた参拝者が、宇治橋から正殿までの参道に溢れていました。今年の参拝者数はすでに一千万人を超えているとのことと、特に若い人の参拝が多いのに驚きました。私たちは神楽殿にて神楽を奉納し、その後に御垣内参拝を行いました。新しい清らかな檜の社殿と飾金具の美しさの佇まいにとっても心が洗われる思いでした。参拝後、「おかげ横町」を散策し、続いて夫婦岩で知られる二見興玉神社を参拝。二日目の宿へと入り、参加者全員による懇親を深めました。

最終日となる三日目には、一路名古屋市へ。三種の神器のうち「草薙剣」を奉祀する本年創祀千九百年を迎えた熱田神宮に参拝しました。正式参拝の後に境内の説明を神職から受け、戦時中に戦災から草薙剣をお護りするため設置した防空壕が、今回の御造営の際に仮殿として使用された事などのお話を伺いました。熱田神宮の参拝の後には、「ひつまぶし」発祥の地としても有名な神宮門前の「あつた蓬萊軒」にて昼食をとり、その味に舌鼓を打ちました。

今回の旅行では、記念すべき式年遷宮の年に伊勢神宮への参拝が叶った事は意義深く、さらに参加者全員が笑顔で無事に旅行を終えることが出来て大変充実したものでなりました。



(神宮司庁提供)



大遷宮の出雲大社に職員研修で参拝

権禰宜 法 元 茂 之

春日神社では職員の見識を深めることを目的に、定期的に研修旅行を実施していますが、本年度は出雲大社での正式参拝を主目的とした出雲地方への研修となりました。

出雲大社は六十年毎に本殿の修復や造り替えを行う式年の御造営のしきたりがあり、本年が丁度その年に当たります。山陰地方はなかなか訪れる機会が無いのですが、五月に神事が斎行されたばかりの新しい御本殿に是非とも参拝させていただこうと言うわけです。私は第二班での参加でしたが、六月二十四日、まずまずの天気の中

に大分駅を出発、広島でレンタカーに乗り換え一路出雲を目指しました。山陰はこれまで随分と遠い印象でしたが、今回の出雲の御造営に合わせて整備されたのか、開通したばかりの自動車道で一息に向かうことが出来ました。

日本神話のなかでも特別の存在である大国主大神を御祭神とする日本有数の古社である出雲大社は、正しくは「いずもおおやしう」と呼ぶそうで、「神明造り」「住吉造り」とともに、「日本の三大神社建築様式」の「大社造り」を今に伝える本殿は、延享元年（一七四四）御遷宮御造営で建立された物で、国宝に指定され

ています。昭和二十八年以来となる今回の御造営は、平成の大遷宮として平成二十年から開始され、本年の五月十日に本殿遷座祭が斎行されたばかりで、平日にもかかわらず大勢の参拝者で賑わっていました。

はじめに千家尊祐宮司からご挨拶と御遷宮についてお話いただきました。創建らしい出雲大社の祭祀は代々出雲国造家が担って来られているのですが、現在の宮司様で出雲国造の千家家は第八十四代を数え、このことだけでも歴史の重みを感じさせます。御遷宮当日は午前中から雨が降り心配されながらも、不思議なことに神事が近づくたびに止み、まさに清めの雨となったこと。また、御遷宮は六十年に一度と大変間隔が長いため、幼少の頃に前回の遷宮を経験し、もう再び関わることは無いだろうと周囲からも言われ、ご自身もそう思いながら過ごしてこられたことなどを笑顔でお話し下さいましたが、今回のご奉仕に喜びもひとしおであられたのだらうと思ひながらお話を伺いました。

その後、職員の方にご案内をいただき独特の二拝四拍手一拝の作法で正式参拝、御本殿を拝観させて頂きました。修復の済んだ本殿は檜皮葺も美しく、飾金具も鮮やかでその大きさと合わせるとよりいっそうの迫力で、特に屋根の千木や勝男木、鬼板は銅板ながら修復前の緑青とは違う光沢のある黒色で仕上がっていました。これは明治の御造営まで使われていた「ちゃん塗り」と呼ばれる伝統的な塗彩方法を今回復活させたそうで、たびたびお参り頂く方には大変驚かれるとお話でした。伝統の重みを感じると共に、それを守っていくために新しい試みが積極的に取り入れられている事に驚きながら出雲大社を後にしました。

その後は、日御碕神社、佐多神社、八重垣神社、神魂（かもす）神社、熊野大社、美保神社を二日間での巡拝となりました。どの神社も出雲大社との強い関わりと歴史の重みを感じさせ、この地に神代の昔から、独自のそして今の私たちにも関わりの深い文化が花開き、今に息づいているのを感じることが出来、さながら神話の中に入り込んだかのようなありました。

かの小泉八雲が魅せられたのもこのような風土に対してではなかったのかとも思え、自分の生まれ育った土地でも、その歴史と文化をよりいっそう学んで理解して行かなければいけないと思える研修となりました。



春日敬神婦人会の活動

春日敬神婦人会 会長 續 道子

全国敬神婦人連合会全国大会に参加

去る九月三日、恒例の全国大会が本年は島根県松江市にて開催され、本会から十三名の会員が参加しました。会場となる松江市の県民会館大ホールには、私達を含め全国から千六百名にもなる敬神婦人会員が一堂に会しました。

まず、午後一時半より記念清興として、全国的に有名な石見神楽の「八岐大蛇」が披露されて大会に華を添え、興奮も冷めやらぬ中に午後二時十分より記念式典の開始となりました。今年の大会は創立六十五周年という節目の記念大会であり、神宮祭主池田厚子様ご臨席のもと、神社本庁統理北白川道久様、島根県神社庁青木義興様他多くの御来賓のご出席のもとで執り進められました。ことに神宮祭主池田厚子様からは「これまで幾多の困難を乗り越え、神社での奉仕や家庭祭祀の振興を通じて、地域社会の平

安と繁栄のため着実に成果をあげてきた皆様の熱意溢れる努力に敬意を表します」とのお言葉を頂きました。

また、記念表彰の伝達が行われ、日頃の活動において功績顕著な五団体とともに個人四百三十三名が受賞しましたが、大分県からは私と中西久江副会長がその栄に浴したことは、本会活動の評価につながるものであり、参加会員とともに大変有難く感じた次第です。

大会終了後に八重垣神社へ参拝し、夜は松江市内にて懇親を深めました。そして翌日は松江市から一路飯梨村の足立美術館へと足を延ばし、横山大観の「紅葉」「富士山」等を拝観しました。

その後出雲市へと向かい、今回のもう一つの目標であった、六十年に一度の大遷宮を終えた出雲大社を正式参拝しました。約六十四万枚にもなる大量の檜皮が葺かれた本殿大屋根の厚み、伝統技法の「ちゃん塗り」が約百三十年ぶりに施された千木などの飾り金具など、美しく蘇った大きな御社殿を間近で拝見し、一同感嘆。大変有意義で実りのある島根県への旅となりました。



国旗小旗作り

去る十月十日、会員十七名が参加して、国旗小旗二千本の奉製作業を行いました。今回の作業は一般財団法人日本文化興隆財団が大分県神社庁を通じて依頼してきたもので、「我が国の伝統精神を踏まえた社会有為の人づくり運動を推進する」という趣旨のもとで国旗奉製の啓発活動を行っています。

このようなことから全国の敬神婦人会を始め様々な団体の手により作業が行われていて、奉製された小旗は主に各都道府県にお越しの皇族方を始め、総理大臣等をお迎えする際などに使われており、テレビや新聞等の報道でご覧になった方も多いのではないのでしょうか。

大分県に於いては、今年七月二十六日から二十九日までの四日間、全国高等学校総合体育大会に際して皇太子殿下が御来県され、県内各地での競技や施設を御覧になられた折に、それぞれの地域では県民をあげて小旗を振りお出迎えています。



初詣のご案内

例年三が日の初詣参拝者は約三十万人を数えます。本年もこの多くの方々をお迎えするべく準備にかりました。熊手や福笹・千支土鈴など数多くの縁起物がある中、社務所内では神職巫女が手分けをして連日破魔矢の奉製作業を行っています。

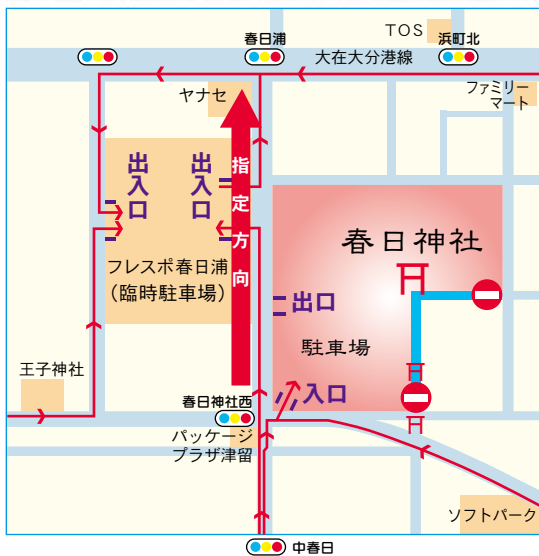
駐車場は境内春日公園を開放するほか、隣接の「フレスポ春日浦」も利用できますが、大晦日から周辺の進入路について規制が行われますのでご注意ください。また、企業団体等の新年祈願祭について、電話にて事前予約をお受けしていますのでお気軽にお問い合わせ下さい。

◎指定車両以外進入禁止

12月31日午後9時より 1月7日午後3時まで

◎指定方向規制

12月31日午後11時より	1月1日午前5時まで
1月1日午前10時より	1月1日午後7時まで
1月2日午前10時より	1月2日午後7時まで
1月3日午前10時より	1月3日午後7時まで



国道10号線の中春日交差点から春日神社に向った場合、右車線は春日公園内駐車場へ、左車線はフレスポ春日浦駐車場への進行となります。

問い合わせ 春日神社社務所 ☎ 097 (532) 5638

人事と表彰

神社本庁辞令

出仕 春日神社権禰宜に任ずる
(平成二十五年十月一日付)
神田 宗伯
権禰宜 法元 茂之
神職身分二級とする
(平成二十五年十二月一日付)

表彰

●全国敬神婦人連合会設立六十五周年記念表彰
会長 續 道子
副会長 中西 久江
(平成二十五年九月三日付)
●大分県神社庁大分支部長表彰
総代 永年 勤統 (十年)
入口 良一
是永 征男
(平成二十五年十月三十日付)



◎大分ヒートデビルズが 必勝祈願

9月20日、プロバスケットボールのBJリーグに参加している「大分ヒートデビルズ」が、運営会社である㈱バスケでの安部省祐社長以下選手スタッフ一同そろって参拝、必勝祈願祭が行われました。

現在県内には四競技のプロスポーツチームがあり、ヒートデビルズは別府を本拠地として活躍してきましたが、本年度に新運営会社が発足して大分市に事務所を設置したことから、今回当社での祈願祭となりました。昨年は西地区七位と今一つの成績でしたが、今季は心機一転、大活躍をお祈りしています。



春日神社「模擬奉式」

平成二十六年一月十九日（日）

模擬奉式

十四時～

- ・巫女舞
- ・雅楽生演奏

*紋付＆白無垢姿のモデルによる模擬奉式神前式について神職から説明もあります

ティータイム

十四時三十分～

- ・デザート
- ・ドリンク
- ・ビデオ上映

*披露宴会場でゆつくりティータイムを楽しんで下さい
もちろん専属のプランナーに相談もOK

※要予約（当日は十三時三十分より受付開始）

春日の杜

散策

vol.18

明和三年 境内絵図



旧由緒記に掲載していたこの明和三年（一七六五）の絵図が、現在確認できる当社境内のもっとも古い佇まいです。社殿に向かって参道右には神宮寺、左には蓬萊山がみられます。現在の神門の位置には慶長十八年建立の鳥居があり、いよいよここから境内内苑です。この時から既に御神木であるかのような一対の大楠の先には鐘楼が建っており、神宮寺とともに繁栄していた様子がしのべれます。そして社殿後方には松の大樹が多数茂っており、これは由緒記にみえる慶長十二年藩主竹中重利によって植樹された松ということでしょう。

この時代に府内藩を治めていたのは松平近形（まつだいらちかのり）ですが、明和二年の大洪水、明和六年の大地震と、次々に天災にみまわれて藩政改革は失敗に終わったとされています。尚、当社記録として明和元年に近形藩主により社殿造替が行われたようです。